平和な島が怒った

主婦会の激励に、返信届く

三宅島から

私たちは、毎月の「八の日」平和行動に長年取り組んでいます。

一九四一年十二月八日は太平洋戦争が始められた日。はかりしれないほどの血と涙を流した戦争の惨禍を繰り返させないために、毎月の「八の日」に反戦・平和を訴えているのです。

さらに、この平和運動の一環として、三宅島で〝軍事空港建設を許すな〟と、たたかいを進めている仲間への支援と激励のハガキ行動をおこないました。

ご承知のように、政府・防衛庁は昨年九月一日「米空母艦戦機の夜間発着訓練（NLP）のための飛行場（軍事空港）」の建設作業＝「気象観測用鉄柱」の建設を強行しました。

三宅島島民の静かで穏やかな生活を脅かし、貴重な自然を破壊させてはならないと島民あげての反対の意思と座り込みに対して、二百七十人もの警察機動隊を導入し、多数の老人や婦人にケガをさせ、島民八人を不当にも逮捕するという暴挙をおこないました。

〝平和で緑豊かな自然のふるさとの島〟を守るために、不屈のたたかいを続ける三宅島の人たちへの支援と激励を、今後も続けていきましょう。

さっそく現地からお礼のハガキが届きましたのでご紹介します。そして、ともに平和運動を進めていくことを誓い合いたいと思います。

（平川主婦会会長）

×　×

ご支援深く感謝申し上げます。

私たちのたたかいも四年になりました。首都東京の玄関口に米軍基地を建設することは絶対に許すことはできません。緑あふれる三宅島を守るために四千島民は一致団結してがんばります。

完全武装した機動隊が私たちをけ散らかすのを見て、国って恐しいもんだと思った。「私たちの声を聞いて下さい」（暮らしの手帖から）

画　姉川良男

人物ルポ

日赤特別表彰の岩下武文さん（一分会）

○…いやー本当に驚きました。献血百回の記録をつくり、荒尾市で初めて日本赤十字社の献血功労者として特別表彰を受けたのです。岩下さんといえば、自然食の実践で有名ですが、もう十五年も続け、以前は体が弱かったそうですが、今では風邪もひかず健康そのもの。

○…献血は自然食を始める前からしていましたが、二十年かかって百回を達成したわけです。本人はどれだけ献血してもよいとのことですが、男子で年六回という制限があります。献血すればするほど血が新しく作られ、それが健康のもとだとか。――そんな常識私たちにはありませんね。

○…現代は飽食の時代で、なんでも欲望に応じて食べることができますが、自然医学上からはこれが万病の源だと指摘します。肉、魚、果物は要注意。とくに冷いものは駄目だそうです。食べ過ぎは大敵、ちなみに岩下さんは一日一回、それも玄米食。

○…食べたり飲んだりしているもので、ほとんど病気の源だといわれると「では何を食べるの」と聞くのが当然。「食べるものはいっぱいあります」要は自然医学にしたしむことなんです。これこそガンにならず、老人ボケを防ぐ最良の道。そういわれてもできないのが凡人の常。興味のある方は一度岩下さんを訪ねてみてはいかがでしょう。

（荒尾市大島社宅十四棟）

短歌

闘いし町

中尾種夫

街路樹の紅葉愛ずるこの辺り火玉となりて闘いし町
喫煙を妻も嫌えば逆らはず二階にて吸う抜ける青空
普段着のまま坑底に座りたる主婦も古りたり時の重さに
娘の家は川上にあり鴨泳ぐ橋越えゆけば漂う旅情
炭鉱背負う男になれよ湯の中で戯れる児らと親しくなりぬ

読初

高椋龍生

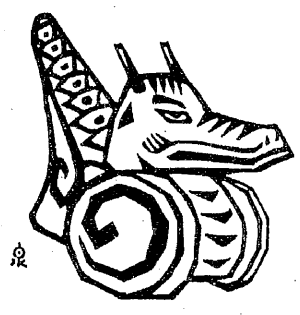
弾丸くぐり落磐くぐり抜け来いま妻よりうくる屠蘇ありがたき
読初の啄木歌集口づさむ情熱いまも老ひてはをらじ
三池争議闘い抜きし定年の坑帽に今も餅飾り涙す

川柳

辰年

山下みのる

竜年の落とし子竜夫竜子さん
富士の春肩から竜がのぞきそう
辰年の気性がちがう親子孫
人を待つ姿に咲いて福寿草
つまずけばさっき叱った子が笑い



詩

ちちとははの口癖

高椋龍生

ちちは無学でした
よく働きました
「人の仕事はおっ盗ってでんせろ」
が口癖でした

ははも無学でした
ちちに劣らず働きものでした
「人に負くんな、勉強せんなんぞ」
が口癖でした

ちちも　ははも
働きつづけながら死にました
孫の顔も見ずに――

わたしは
ちちとははの口癖を
口癖のように自分に言い聞かせながら
働きつづけ生きつづけて来ました

わたしの口癖の中でちちもははも
生きつづけ

ときをり夢の中で
「人の仕事はおっ盗ってでんせろ」
「人に負くんな、勉強せんなんぞ」
と　どなりつけてくれるのです

俳句

初鏡

高椋龍生

日々新花鳥諷詠初暦
新年の大地に一歩踏み出だす
初鏡心に曇りなかりけり
人として生きる証の初日記
春著着て若さを妻のとりもどす

雑句

思い出

松永一郎

『みいけ』には全国友の文の声
思い出の職場新聞『みちび』かな
住み慣れた社宅巡りのなつかしく